

大学名 信州大学

第67号 特集テーマ「大学と新しい学び」

表題 学生も学びの環境を大学や社会と共創する「ローカル・イノベーター養成コース」

信州大学では、全学生を対象に独自の履修認定制度「全学横断特別教育プログラム」5コースを開講している。その1つ「ローカル・イノベーター養成コース」では、地域・社会の現場（ローカル）の課題を分析し、革新的（イノベティブ）な解決策を考え実践できる力を身に付けた高度キャリア人材の育成を目指す。

1年次には地方創生のトップランナーである実務家教員からインプットを得て考え抜く力を鍛えるとともに、リサーチ・リテラシーを強化。2年次にはプロジェクト・マネジメントの実践として、仕事のリアルを考える全ての高校生や大学生と社会人（企業）の対話交流イベント「大しごと〜く in 信州」を学生自身が企画・運営する。学部の枠を超えて取り組み、幅広く深い人的ネットワークを構築しながら、自分たちの企画の価値創出を求め、試行錯誤している。3年次にはこれまでの知識・能力をさらに深めるため、インターンシップを受講。企業や自治体とパートナーを組み、自ら設定をした答えがない課題に取り組む。繊維メーカーの商品開発を経験し在学中に起業した者、林業家と大工棟梁に学び自身で伐木・造材ができるようになった者などユニークな人材を輩出している。リアルな言葉として発信される活動報告を聞いた後輩学生は、目指したい人材像や活動を具体的にしていく。

学生も学びの環境を大学や企業と共創していくことに「新しい学び」がある。それらが後輩学生にも繋がり、さらには企業の中にも学びや挑戦を生み出すような「機会の共創と循環」に繋がっていくことが、次なる大学の役割になると見据えている。

1 スタートアップ（1年次後期）

ローカル・イノベーターとしてのマインドを磨く

- ・地域の問題の現場を自らの目で確認し、生の声を聞く。通常では入ることができないような特別な場所も見たり体験することができる場合もある。
- ・授業では知識だけでなく、地域の市長や企業の社長など地域講師との対話やグループでのワークショップを中心とし「考える力」の育成、アクション・リサーチの基本的な流れを体得。



卒業時に学長より修了証が授与される

2 イノベーション・リテラシー（1年次後期）

基本的なリサーチ・リテラシー（統計データの読み解き方、データ分析や表現等）やインタビュー調査等の手法を学び、質的に深い情報を引き出すトレーニングを行う。集合知によってアイデアを創出するワークショップ手法等を実践的に学習。



■ +α 課外活動での実践

コースで習得した力を活かす関連する様々な課外活動等を紹介

- ・実践活動での経験値 UP
- ・学外のネットワーク構築



3 リアル・プロジェクト・マネジメント（2年次後期集中）

企画・運営の実践を通じて事業の全体把握やタスク管理、チームによる連携を学ぶ。学生が主体となり、プロジェクトの企画・運営を実践。OJT方式で、会場確保から基調講演者の調整、進行台本等の作成、チームメンバーの適切な役割分担や協働のマネジメント等を学生が主体となって実施。



4 課題解決インターンシップ（3年次前期集中）

専門教育・コースで培った力をリアルな現場でさらに磨くため、地域企業・団体・行政等の現場へのインターンシップを実施。問題の分析から課題設定をし、限られた時間や条件の中で協力し、課題解決の実践に取り組む。提案や実践した解決策はプレゼンテーションを行い、社会から評価を受ける。養ってきたローカル・イノベーター養成コースでの経験知をさらに深める。

